



日本聖公会東京教区
各教会・礼拝堂・教役者・信徒の皆さま
各委員会・協議会・加盟団体委員長・議長の皆さま

3月30日以降の礼拝（公禱）について休止継続の通達

2020年3月25日

東京教区主教
フランシスコ・ザビエル高橋宏幸

3月4日付の「新型コロナウイルス感染症対応のお願い」第四信にて、「3月8日（大齋節第二主日）～29日（大齋節第五主日）まで礼拝（公禱）を休止する」旨をお伝え致しました。その後、3月19日に政府専門家会議から見解が出されました。加えまして、

- 1 感染リスクが高いとされている、公共交通機関利用への対策が教会として十分に取られていることについて
- 2 東京教区が大原則とした「人びとのいのちを守ること」「教会としての社会的責任を果たすこと」への対応が十分になされていることについて
- 3 このような状況の中、教会に人が集中して集まることへの危惧は払拭できない
- 4 示唆されている予防のための諸条件をすべてクリアしての礼拝執行に徹することには困難がある
- 5 東京という人の動きや移動の極めて多い大都市において、感染源が特定できないことに因る感染増加の中、感染リスクがある信徒の方がたへの教会の十全な対応が困難である

等の角度から、常置委員会、聖職会、教区事務所主事会等での話し合いも重ね、東京教区としましては、厳しい苦渋の決断ではありますが、

公的機関からの情報等を基に、今後の方針が定まる迄3月29日（大齋節第五主日）以降の公開の礼拝（公禱）の休止を継続すること

と致しましたので、お知らせ致します。

これに伴い、以下の点をお伝え致します

- ・教会運営に支障のない限り、種々の会合は自粛を要請致します
- ・但し、礼拝堂への来訪者のために礼拝堂の扉を開け開放していることは構いません
- ・教役者、または家族、信徒、関係者に感染者が確認された場合は、速やかに教役者に伝え、教役者は教区事務所総主事（下条司祭）に報告し、活動を自粛して下さい

日本聖公会 東京教区

NIPPON SEI KO KAI
-The Anglican Church in Japan-
Diocese of Tokyo



主教：フランシスコ・ザビエル 高橋宏幸

Bishop: The Rt. Rev. Francisco Xavier H. Takahashi

聖週、イースターと、殊に大切な時に一堂に会しての礼拝を捧げることができない辛さと悲しみには計り知れないものがありますが、各々の場所での祈りはキリストの教会と全世界のための祈りであり、信仰の業でもあります。

このような時であるからこそ一層、主イエスのご復活された「最初のイースター」、そして、「洗礼の原点・信仰生活の原点」に思いを馳せ、黙想の時といたく願います。

今後も、聖アンデレ主教座聖堂のホームページを通して、「自宅で行なう主日礼拝」をはじめとして、情報提供をしてまいります。共に祈り合うことによる連帯と信頼の中に、主が共におられることを堅く強く信じます。

感染症に罹った方々の一日も早い回復と医療従事者のお働き、生活上の不安、困難を余儀なくされている方々への支え、そしてご逝去された方々の魂の平安と悲しみの内にある方々への慰め、この危機の収束を切にお祈り致します。